

東建パブリニュース

平成28年 5月31日

経営管理本部 広報 I R 室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成28年 5月30日 中部経済新聞 P. 18

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

幼少期は「モノを作るのが好きだった」という。小学生時代の好きな科目は図工。自宅でも、自分の部屋にちょうどいいサイズの収納箱がなければ自分で作った。段ボールを切って入れ物をつくり、柄の入った紙を外側に貼る。最初はうまくできなくても、繰り返し挑戦することで上達していった。「やればやるほど作品の出来がよくなっていくのが子ども心にうれしかった」と振り返る。

成長とともに作品の完成度はさらに高まっていく。材料は段ボールから木材に変わり、手にはノコギリを握るようになった。「頭の中に完成形をイメージし、手を動かす。想像通りの物が出来上がったときは大きな達成感を味わえる」と、モノづくりの醍醐味（だいてみ）を語る。

興味の対象はやがて部屋の模様

東建コーポレーションのグループ会社で、システムキッチンなどの住宅関連機器を製造販売するナスラック。製造販売部商品開発課主任の石川依子さん（38）は、新商品やリニューアル商品の企画を担当している。「他社のホームページを閲覧したり、街中のショールームをのぞいたりして、市場にどんな物が出回っているかを調査する。そうして集めた情報を自社商品の開発に生かす。常に刺激を受けながら仕事をさせてもらっている」と笑顔で話す。

想像力を働かせ商品開発



「常に刺激を受けながら仕事をさせてもらっている」と話す石川さん。

使い勝手考え工夫凝らす

石川 依子さん

（いしかわよりこ）

替えに広がっていった。将来は「出せる仕事に就きたい」と考え、「自分が理想とする空間をつくり、大学ではデザイン科に進学。室内インテリアコーディネーターに就職した。



インテリアコーディネーターを学んだ一面も

ナスラック製造販売部商品開発課主任



♡大切な言葉♡

こだわり

何事も、自分なりのこだわりを持って取り組むことが大切。妥協せずに挑戦を続けてこそ、大きな達成感を味わうことができる。

「使い勝手を考え工夫を凝らす一面は私生活にも顔を出す。その一つが「頻繁にやっている」という部屋の模様替え。「朝起きて、身支度をして、出勤するまでの作業をスムーズにしたいから」と、ベッドや棚などの配置を変更する。ただ、家具の位置が変わると生活のリズムが崩れ、「忘れ物が多くなる」ことも。そういう場合は再び配置を戻す。重い家具の移動を手伝ってくれる父親は、いつも優しく心強い存在だが、「模様替えを頻繁にやり過ぎて」「またか」と言われることもあってと笑う。

休日はショッピングを楽しんだり、ベッドの犬と自宅で過ごしたり。「トイアールとチワワの2匹に毎日元気をもらっている」と目を細める。家庭でのんびり過ごすのが貴重な癒やしになっている。

ナスラックに入社するまでは社内に在籍し、いずれも営業職として顧客を訪問した。相手の話に耳を傾け、問題点は何かを考え、今時の経験は「今の仕事にも生かされている」という。

中途入社でナスラックに入社し、今年で6年目。今後、よりクオリティの高い商品の企画に取り組みつも